平成２８年度

教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書

平成２９年１１月

玉 野 市 教 育 委 員 会

目　　　次

基本方針・・・ 1

平成２８年度　重点施策の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

玉野市教育委員会の機構及び事務分掌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

平成２８年度教育委員会の活動状況

(1) 教育委員・・・ 4

(2) 平成２８年度教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

(3) 教育委員会議決案件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

(4) 教育委員懇談会・・ 6

(5) 教育委員学校等視察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

(6) その他の活動・・ 8

教育費決算額・・・ 9

平成２８年度主要推進事業に関する自己評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

事業一覧・・ 11

Ⅰ．心かよいあう家庭・地域社会の教育力の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

Ⅱ．心豊でたくましく生きる人間を育てる学校教育の推進・・・・・・・・・・ 20

Ⅲ．生きがいに満ちた人生を育む生涯学習の振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

学識経験者による意見・・・ 44

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律】

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たつては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成２８年度　基本方針

今日、市民は、学習活動や文化・スポーツ活動、ボランティア活動等への参加を通じて、心身ともに健やかで、生きがいと喜びに満ちた豊かな人生の実現を目指しています。

このような市民の願いを受け、玉野市教育委員会は、「みんなで築くたまのプラン（玉野市総合計画）」に基づいて、市民参加による施策づくりを推進し、人間尊重の精神を基調にした生涯学習社会の実現を目指します。

豊かな心と確かな学力を身につけ、自分の夢に向かって歩む子どもを育成するため、学校教育においては、道徳教育や人権教育・読書活動・体験活動を充実させ、自ら挑戦する意欲や社会性・創造性を伸ばすとともに、正義感や倫理観、思いやりの心や感動する心を育みます。

また、教職員の資質能力の向上を図るとともに、就学前教育・保育も含めた「地域ぐるみの中学校区一貫教育」による系統的・継続的な指導体制や特別支援教育等の支援体制の充実による子どもたちの健全育成や授業の質の向上等を推進し、子どもたちの学習意欲を高め、自ら学び考える力を伸ばし、学力向上に努めます。

さらに、各種施設の整備、教育環境充実に努めるとともに、各校・園は、主体的な学校園経営を行い、家庭や地域と協力・連携して、子どもの安全確保や食育・体力向上などの取組を進め、地域に開かれた魅力と特色ある「信頼される学校園づくり」を推進します。

社会教育においては、市民の生きがいのある生活づくりや健康づくりを推進するため、地域住民等の意向を反映させながら、関係団体とも連携して、生涯学習の場と機会の提供を充実させ、芸術・文化、スポーツの振興を図ります。

また、子育てに関する学習の機会を提供する等、家庭教育を支援する環境整備に努めます。

さらに、地域の教育力を高め、地域の活性化や世代間交流を図る活動を推進しながら、学校・家庭・地域が相互に協力し、地域ぐるみで未来を担う子どもたちを育む支援体制の充実に努めます。

諸施策の実施に当たっては、教育委員会が積極的に情報を発信し、関係諸機関や教育関係団体との連携のもと、広く市民の理解と協力を得ながら、心豊かな人づくりと、生きがいに満ちたまちづくりに取り組みます。

平成２８年度　重点施策の体系

豊かな心を育むまち

（教育の充実）心豊かな人を育むまちづくり

Ⅰ 心かよいあう家庭・地域社会の教育力充実

1. 家庭の教育力の充実
2. 地域社会の教育力の充実
3. 家庭･学校園･地域社会の連携強化
4. 多様な保育サービスの提供
5. 健やかな成長を支援する場の提供

Ⅱ 心豊かでたくましく生きる人間を育てる学校教育・保育の推進

1. 学校園経営と教育･保育内容の充実
2. 時代の進展に対応した教育･保育の推進
3. 学校園における人権教育の推進
4. 健康教育の推進と充実
5. 安全で適切な教育･保育環境の提供

（文化の醸成）生きがいに満ちた豊かなまちづくり

Ⅲ 生きがいに満ちた人生を育む生涯学習の振興

1. 生涯学習推進体制の整備･充実
2. 多様な学習環境の提供
3. 学習の場の整備･充実
4. 社会教育活動の充実
5. 青少年の健全な育成
6. 人権教育の充実
7. スポーツ活動の活性化
8. 芸術文化に触れる機会の提供及び文化財の保護保存

玉 野 市 教 育 委 員 会 の 機 構 及 び 事 務 分 掌

［平成 29 年 3 月 31 日現在］

- 教育委員会
  - 教育委員
  - 教育長 職務代理者
  - 教育長 (32-5571)
  - 教育次長 (32-5571)
    - 教育委員会事務局
      - 教育総務課 (32-5571)
        - 教育総務係：教育委員会会議、調査、統計、学校等の設置・廃止、予算編成・執行、教育行政の重要施策の企画・総合調整、授業料等
        - 施設係：学校等の建設及び営繕、施設の取得処分、施設管理及び防災
      - 学校教育課 (32-5575)
        - 学事係：教職員の人事給与、学校管理運営、通学区域、児童生徒の入退学及び就学、要・準要保護の補助 、給食、学校医等の人事給与、教職員・児童等の健康診断 、給食施設の設置・廃止
        - 指導係：教育課程の編成、学校訪問、教科用図書の採択、教職員の研修、教育研修所、教育研究団体 、給食指導、保健指導、中学校区教育保育の連携、保健体育の調査等
        - 学校給食センター/東児調理場 (31-6441/41-1203)：学校給食用物資の管理、調理・配送、栄養・食事の指導
      - 就学前教育課 (32-5573)
        - 就学前教育係：子ども・子育て支援事業計画、子ども・子育て会議、幼保一体化保育園・認定こども園・幼稚園の管理運営、特別保育、病児・病後児保育
      - 社会教育課 (32-5577)
        - 社会教育係：社会教育委員会議、青少年教育、家庭教育支援、社会教育指導育成、人権教育、青少年問題協議会、社会教育施設の設置、奨学金、PTA連合会事務局、成人式、放課後児童健全育成事業児童館、幼児クラブ
        - スポーツ推進係：社会体育の企画実施、スポーツ・レクリエーション活動の企画・指導、スポーツ施設の設置・管理・運営、文化・スポーツ顕彰
        - 生涯学習センター (83-9200)：指導者の養成と研修、学習情報提供・相談、学習機会の提供交流・連携促進、地域子ども楽級、少年少女発明クラブ
          - 視聴覚ライブラリー：視聴覚の研究、教具教材の充実・整備・貸出、講座、講習会
        - 玉野市総合体育館 (スポーツ振興財団:32-3709)：スポーツ施設の管理・運営、スポーツ・レクリエーション活動の指導
    - 教育機関
      - 教育サポートセンター (33-5115)
        - 適応指導教室 (33-5300)：不登校児童生徒の学校復帰への支援
        - 教育支援室 (33-5115)：学校問題相談(児童生徒・保護者・教職員)、学校支援訪問(学校の課題解決)
        - 青少年育成センター (33-5115)：青少年相談、街頭指導、非行防止の啓発、有害環境の浄化人権教育、家庭教育支援
      - 総合文化センター (31-3711)
        - 中央公民館 (31-3711)：生涯学習の企画・運営、定期講座、公民館運営審議会公民館の予算、公民館の連絡調整、地域人づくり大学
        - 図書館 (31-3712)：館内外奉仕活動、レファレンスワーク、調査統計記録、資料収集・分類、読書会、図書館協議会等
        - 文化振興係：文化財保護、芸術文化の振興、文化団体指導育成、文化・スポーツ顕彰
        - 公民館9館：定期講座、講習会、社会教育活動の指導育成
        - 文化会館 (33-8118)：施設の管理・運営、事業の企画・運営、文化活動の振興・支援

平成２８年度教育委員会の活動状況

（1）教育委員（平成２９年３月３１日現在）

役 職 名	氏　名	就任年月日	現　任　期
教　育　長	板﨑（いたざき）　彰（あきら）	平成 26 年 4 月 1 日 ２期目	平成 28 年 10 月 1 日 ～平成 31 年 9 月 30 日
教育長職務代理者	川口（かわぐち）　雅之（まさゆき）	平成 26 年 4 月 1 日 １期目	平成 26 年 4 月 1 日 ～平成 30 年 3 月 31 日
委　　員	野田（のだ）　洋二（ようじ）	平成 23 年 6 月 27 日 ２期目	平成 27 年 6 月 27 日 ～平成 30 年 3 月 31 日
委　　員	近藤（こんどう）　寿子（ひさこ）	平成 27 年 10 月 2 日 １期目	平成 27 年 10 月 2 日 ～平成 31 年 3 月 31 日
委　　員	大川（おおかわ）　佳郎（よしお）	平成 28 年 10 月 1 日 １期目	平成 28 年 10 月 1 日 ～平成 32 年 3 月 31 日

（2）教育委員会 会議開催状況　　（　　）は持ち回り会議

開催日	教育長報告	議事	協議	その他	開催日	教育長報告	議事	協議	その他
4/ 5	1			1	9/29	1	1	2	4
(4/13)			1		10/25	1	1		4
4/22		3		7	11/ 9	1		1	2
5/17		3	1	3	11/22		1	1	5
5/24		5	2	2	12/20	1	4		7
6/28	1	4	1	6	1/24	1	1		7
7/19	1		1	3	2/14		2		3
7/26	1	1		3	2/28		1	1	3
8/23	1	4		6	3/29	1	5		9

計	教育長報告	議事	協議	その他
18 回	11	35	11	75

（３）議決案件

No.	月　日	議 決 事 項
1	4 月 22 日	玉野市教育委員会職員被服等貸与規程の一部改正について
2	〃	玉野市公民館運営審議会委員の委嘱について
3	〃	玉野市立図書館協議会委員の任命について
4	5 月 17 日	玉野市放課後児童クラブ条例の一部改正について
5	〃	玉野市奨学金選考委員の任命について
6	〃	玉野市文化財保護委員の委嘱について
7	5 月 26 日	玉野市教育委員会委員長の選任について
8	〃	玉野市教育委員会委員長職務代理者の指定について
9	〃	玉野市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
10	〃	玉野市立公民館条例の一部改正について
11	〃	玉野市立体育施設条例の一部改正について
12	6 月 28 日	玉野市社会教育委員の委嘱について
13	〃	たまのっ子育成支援委員会委員の委嘱について
14	〃	平成２８年度玉野市奨学生選考委員会の選考結果について
15	〃	玉野市文化・スポーツ顕彰選考委員の委嘱について
16	7 月 26 日	玉野市教育委員会昇任選考委員会規程の制定について
17	8 月 23 日	玉野市保育所条例の一部改正について
18	〃	玉野市立図書館及び中央公民館の移転に伴う関係条例の整備について
19	〃	玉野市文化会館条例の廃止について
20	〃	玉野市立公民館管理規則の一部改正について
21	10 月 25 日	玉野市立図書館条例及び玉野市立公民館条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則の制定について
22	11 月 22 日	玉野市立図書館雑誌スポンサー制度実施要綱の制定について
23	12 月 20 日	玉野市教育委員会規則の読点に関する特別措置既読の制定について
24	〃	玉野市教育委員会告示の読点に関する特別措置既読の制定について
25	〃	玉野市教育委員会訓令の読点に関する特別措置既読の制定について
26	〃	玉野市立学校職員服務規程の一部改正について
27	1 月 24 日	玉野市教育委員会職員再任用事務取扱要綱の一部改正について
28	2 月 14 日	玉野市立学校給食センターに勤務する技能労務職の職員の就業規則の一部改正について
29	〃	玉野市立学校職員服務規程の一部改正について

No.	月　日	議 決 事 項
30	2 月 28 日	市費負担教員の任用等に関する規則一部改正について
31	3 月 29 日	玉野市教育委員会事務局組織及び事務分掌規則等の一部改正等について
32	〃	玉野市費負担教員の任用等に関する規則の一部改正について
33	〃	スポーツ推進委員に関する規則の一部改正について
34	〃	玉野市教育委員会職員被服等貸与規程及び玉野市教育委員会の特殊な勤務に従事する職員の勤務時間等に関する規程の一部改正について
35	〃	玉野市立学校に勤務する県費負担教職員及び玉野商業高等学校教職員の人事評価制度に係る苦情相談及び苦情処理に関する要綱の一部改正について

（4）教育委員懇談会

平成２８年度共通テーマ：「『たくましく まなんで のびる たまのっ子』を育むために」

回	月　日	テーマ	参加者	人数
1	6 月　9 日	家庭と学校の連携について	ＰＴＡ役員	6
2	9 月 29 日	就学前教育保育の現状と課題について	保育園･認定こども園長	6
3	2 月　9 日	中学校区一貫教育の構築を目指して	中学校区連携コーディネーター等	6

（５）学校等視察

《視察方法》

① 新たに教育委員会の所管となった、保育園、認定こども園は全員で視察する（14 施設）

② 新任校長園長の学校園及び特別の事情のある施設は全員で視察する。（12 施設）

③ 上記以外の施設は２班に分かれて視察する。（24 施設）

■5 月 17 日（全員）	■5 月 24 日（全員）	■9 月 29 日（全員）
紅陽台ちどり保育園	大崎保育園	中央公民館
槌ケ原ちどり保育園	八浜認定こども園	図書館
渋川保育園	鉾立保育園	玉小学校
和田保育園	サンマリン認定こども園	教育サポートセンター
玉原保育園	後閑保育園	和田幼稚園
玉認定こども園	田井保育園	日比中学校
宇野保育園	築港ちどり保育園	備南高等学校（生涯学習センター）

■11 月 9 日（全員）	（１班）	（２班）
商業高等学校	東児中学校	後閑小学校
八浜中学校	山田小学校	八浜小学校
鉾立小学校	山田中学校	大崎小学校
胸上小学校	田井幼稚園	田井小学校
東児調理場		

■11 月 22 日（１班）	（２班）
荘内幼稚園	築港小学校
荘内小学校	宇野中学校
荘内中学校	宇野小学校
荘内南幼稚園	宇野幼稚園
玉原幼稚園	日比幼稚園
玉原小学校	第二日比小学校
給食センター	日比小学校
レクレセンター	玉中学校

（6）その他の活動

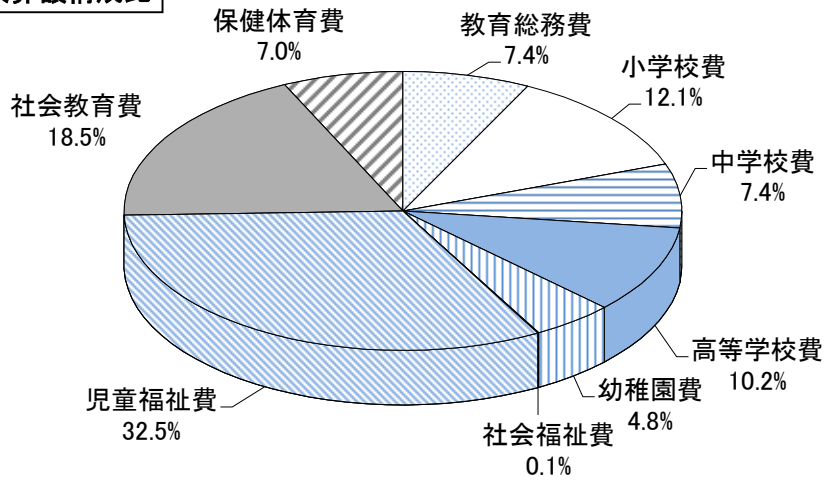
月　日	内　　容	場　所
4月　5日	玉野市教育功労者感謝状贈呈式	玉野市役所
6月　1日	第1回総合教育会議	玉野市役所
6月～	子ども楽級前期視察（市内全14楽級）	市内一円
7月12日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会	倉敷アイビースクエア
7月15日	玉野商業高等学校校舎改築竣工式	玉野商業高等学校
7月19日	グロスターホームステイ壮行式	玉野市役所
8月23日	グロスターホームステイ報告会	玉野市役所
10月25日	第2回総合教育会議	玉野市役所
11月　3日	文化・スポーツ顕彰表彰式	レクレセンター
〃	文化協会表彰式	総合文化センター
11月11日	小学校　教育研究発表会	玉原小学校
12月～	子ども楽級後期視察（市内全14楽級）	市内一円
1月　8日	玉野市成人式	マリンホテル
1月24日	教育委員県外先進地視察研修	坂出市
2月　3日	教育問題懇談会	岡山県庁

2　教育費・民生費（教育委員会所管分）決算額

(1) 平成28年度決算額内訳

項	金額(千円)	前年度比(千円)	伸び率(%)
教育総務費	317,061	36,158	12.9
小学校費	520,794	△ 307,264	△ 37.1
中学校費	319,456	△ 251,670	△ 44.1
高等学校費	437,055	△ 547,381	△ 55.6
幼稚園費	203,830	△ 14,082	△ 6.5
社会福祉費	3,044	3,044	―
児童福祉費	1,396,335	1,396,335	―
社会教育費	793,611	453,804	133.5
保健体育費	299,472	△ 11,549	△ 3.7
計	4,290,658	757,395	21.4

平成28年度決算額構成比



(2) 教育費決算額の推移

項	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
教育総務費	363,801	270,426	326,504	280,903	317,061
小学校費	1,190,936	1,278,907	993,775	828,058	520,794
中学校費	188,801	163,726	296,596	571,126	319,456
高等学校費	505,410	503,188	776,630	984,436	437,055
幼稚園費	269,175	205,682	220,396	217,912	203,830
社会福祉費	（機構改革により平成28年度から教育委員会所管分が発生）				3,044
児童福祉費					1,396,335
社会教育費	302,395	295,569	321,475	339,807	793,611
保健体育費	341,924	339,289	325,808	311,021	299,472
計	3,162,442	3,056,787	3,261,184	3,533,263	4,290,658

平成２８年度主要推進事業に関する自己評価

「平成28年度玉野市教育行政重点施策」において掲げた主要推進事業への取り組み状況、達成度などについて、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの四段階で自己評価を加えた。

【評価基準】

Ａ ･･･ 十分な成果があった

Ｂ ･･･ 概ね満足な成果があった

Ｃ ･･･ 成果がやや不十分であった

Ｄ ･･･ 成果に不満が残った

平成２８年度主要事業の点検・評価　事業一覧

Ⅰ．心かよいあう家庭・地域社会の教育力の充実

【区分】家庭・地域社会の教育力の充実

事　業　名	〈担当所属名〉	評価	ページ
地域子ども楽級推進事業	〈社会教育課〉	A	14
家庭教育支援事業	〈社会教育課〉	A	15
学校支援地域本部事業	〈社会教育課〉	B	15
玉野市子ども会連絡協議会研修事業	〈社会教育課〉	B	16
成人式開催事業	〈社会教育課〉	B	16
たまの地域人づくり大学	〈中央公民館〉	A	16
児童館管理運営事業	〈社会教育課〉	B	17
放課後児童クラブ管理運営事業	〈社会教育課〉	A	17
子育てメールマガジンの配信	〈就学前教育課〉	A	17

【区分】多様な保育サービスの提供

病児・病後児保育事業の実施	〈就学前教育課〉	A	18
子育て支援情報の提供	〈就学前教育課〉	B	18
一時保育の実施	〈就学前教育課〉	A	19
一時預かり事業の実施	〈就学前教育課〉	A	19

Ⅱ．心豊かでたくましく生きる人間を育てる学校教育の推進

【区分】心と体の育成

スクールカウンセラー配置事業	〈学校教育課〉	A	20
スクールカウンセラー連絡協議会	〈学校教育課〉	A	20
こども未来づくりネットワーク連絡協議会	〈学校教育課〉	A	20
チャレンジワーク推進事業	〈学校教育課〉	B	21
生徒指導体制の充実	〈学校教育課〉	A	21
適応指導教室運営事業	〈学校教育課〉	A	21
教育支援室運営事業	〈学校教育課〉	A	22
小学校不登校対策実践研究事業	〈学校教育課〉	A	22
アレルギーメールマガジンの配信	〈学校給食センター〉	A	23
学校における食育の推進	〈学校教育課〉	B	23

【区分】学力向上の推進

３５人学級実施事業	〈学校教育課〉	A	23
小１グッドスタート支援事業	〈学校教育課〉	B	24
小学校学習支援事業	〈学校教育課〉	B	24

事　業　名	〈担当所属名〉	評価	ページ
中学校学習支援事業	〈学校教育課〉	B	24
中学校数学力ステップアップ事業	〈学校教育課〉	B	25
小中連携英語力育成事業	〈学校教育課〉	A	25
中学校アフタースクール学習支援事業	〈学校教育課〉	A	25
英語教育推進事業	〈学校教育課〉	A	26
魅力ある授業づくり徹底事業	〈学校教育課〉	A	26
たまのっ子算数プリント作成と活用	〈学校教育課〉	B	26
学力向上プラン作成と実践	〈学校教育課〉	B	27
小学校・中学校研究指定事業	〈学校教育課〉	A	27

【区分】特別支援教育の充実

生活支援員配置事業	〈学校教育課〉	B	27
特別支援教育事業	〈学校教育課〉	B	28
特別支援教育ネットワーク連絡協議会	〈学校教育課〉	B	28
特別支援教育サポートチームの派遣	〈学校教育課〉	B	28
授業のユニバーサルデザインの推進	〈学校教育課〉	B	29
特別支援教育研究指定事業	〈学校教育課〉	B	29

【区分】保育士･教員等の指導力向上

教育研修所事業	〈学校教育課〉	B	29
保育協議会研修会の実施	〈就学前教育課〉	A	30
各種研修会の実施	〈学校教育課〉	A	30

【区分】教育環境の整備

学校事務の共同実施	〈学校教育課〉	A	31
校種間連携の実施から中学校区一貫教育構築へ	〈学校教育課〉	B	31

【区分】安全・安心の確保

不審者情報メールマガジンの配信	〈学校教育課〉	A	32
地域パトロール隊	〈学校教育課〉	A	32

【区分】環境教育の推進

環境教育推進事業	〈教育総務課･就学前教育課〉	B	32

【区分】スポーツ・文化芸術活動の振興

競技スポーツ振興事業	〈学校教育課〉	A	33
玉野市立学校 文化・芸術活動等育成事業	〈学校教育課〉	A	33

【区分】家庭・地域との連携

事　業　名	〈担当所属名〉	評価	ページ
教育委員懇談会	〈教育総務課〉	B	33
玉野商業高等学校 学校ボランティア活性化事業	〈学校教育課〉	A	34
園と家庭のかけはし事業	〈就学前教育課〉	A	34
土曜授業の実施	〈学校教育課〉	A	34

Ⅲ．生きがいに満ちた人生を育む生涯学習の振興

【区分】生涯学習の推進

生涯学習人材バンク	〈社会教育課〉	B	35
生涯学習施策推進事業	〈社会教育課〉	B	35
まちづくり出前講座	〈社会教育課〉	A	35

【区分】人権教育の推進

人権教育推進事業	〈社会教育課〉	B	36

【区分】青少年健全育成活動の推進

補導活動の推進	〈社会教育課〉	A	37
広報啓発活動と関係機関との連携	〈社会教育課〉	B	37
環境浄化活動	〈社会教育課〉	B	38
不審者対策	〈社会教育課〉	B	38

【区分】スポーツの推進

総合型地域スポーツクラブ育成事業	〈社会教育課〉	B	39
スポーツ指導者研修会開催事業	〈社会教育課〉	B	39
競技スポーツ推進事業	〈社会教育課〉	B	39
トップアスリート招へい事業	〈社会教育課〉	B	40
スポーツ施策推進事業	〈社会教育課〉	A	40

【区分】地域文化の振興

市民コンサート開催事業	〈総合文化センター〉	A	41
文化・スポーツ顕彰事業	〈社会教育課･総合文化センター〉	A	41
芸術文化振興助成事業	〈総合文化センター〉	A	41
文化財整備事業	〈総合文化センター〉	B	42
トップアーティス招へい事業	〈総合文化センター〉	B	42

平成２８年度主要事業の点検・評価

Ⅰ．心かよいあう家庭・地域社会の教育力の充実

【区分】家庭・地域社会の教育力の充実

事　業　名	事　業　内　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
地域子ども楽級推進事業 （県） 〈社会教育課〉	放課後や週末に、小学生が公民館を利用し、地域のボランティア指導者や協力者のもとで、遊び・ものづくり・体験学習・世代間交流・学習などの活動をするための支援を行う。 また、小学校の余裕教室等で、毎月１～２回程度、平日の放課後に「おさらい会」を実施し、希望する３年生を対象に、算数の基礎基本の習得の学習支援を行う。 （全小学校区）	A	≪成果≫ 学校や家庭だけでは体験することのできない様々な活動をとおして、子どもたちは社会性や自主性とともに、感謝の気持ちや思いやりの心を身につけ、地域に愛着をもつようになってきている。 また、地域住民の子どもたちへの関心も高まるとともに地域の教育力が高まり、生涯学習の視点からも、学びが循環する地域社会の形成の一助となっている。 平成28年度は長年の取組と内容が評価され、文部科学大臣から表彰を受けた。 ○子ども楽級（全14楽級） ・年間開催日数　1,256回 ・参加児童延べ人数　6,556人 ・協力者延べ人数　4,430人 ○おさらい会（全14おさらい会） ・年間開催日数　192回 ・参加児童延べ人数　3,472人 ・協力者延べ人数　1,256人 --- ≪課題≫ 国の「放課後子ども総合プラン」に基づく放課後児童クラブと地域子ども楽級の一体化を含めた連携のあり方が課題である。また、地域コーディネーター等の後継者確保が課題である。今後地域学校協働本部との関わりについて検討の必要がある。	7,770

事　業　名	事　業　内　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
家庭教育支援事業 （県） 〈社会教育課〉	市内保育園・認定こども園・幼稚園及び全小・中学校において、参観日等を利用し、子育てに関する講演会を実施する。また就学前の子どもの保護者を対象に、子育てワークショップや、入学前交流会を開催することで、日頃の子育てを主体的に振り返り、保護者同士が交流する機会を提供する。 また「親学」啓発パンフレットを活用して学習情報を提供することで家庭教育の支援体制を強化する。	A	≪成果≫ 保護者に向けて、子どもの成長段階に応じた家庭の役割を認識する講演会やワークショップや交流会を56回開催。参加人数2,582人。アンケートでは、参加して良かった。今後も参加したい。との感想が大半を占めている。3歳児の保護者と希望する園・学校に「親学」啓発パンフレットを300部配布。 ≪課題≫ 就労等で多忙な保護者への家庭の大切さを意識できる機会の確保、また地域ぐるみで家庭教育支援を行うための人材確保が課題である。	669
学校支援地域本部事業 （県） 〈社会教育課〉	学校支援コーディネーターの指導のもとで、地域や保護者の方が学校園でボランティア活動をすることにより、学校・地域・家庭が連携して教育を行う体制を構築するもの。年間を通じて沢山のボランティアが活動し、授業やクラブ活動等での学習支援、草刈りや花壇等の環境整備、登下校やプール、校外学習等での安全見守り、伝統行事の指導など、多岐にわたるサポートを行っている。	B	≪成果≫ 平成28年度には、２幼稚園、14小学校、１中学校で事業を実施した。年間を通じて学校園に地域ボランティア約800名が関わり、子どもたちに学力の向上、安全な学校生活、豊かな経験の場を提供している。多世代間の触れ合いが少なくなった子どもたちにコミュニケーションの機会を与え、また、地域の人が奉仕活動する姿を間近で見ることで、情操の発達にも役立っている。 さらには、子どもたちが、地元を知り、愛着心を持つことにも寄与していると思われる。 ≪課題≫ ボランティアやコーディネーターの後継者不足が課題である。今後は各校間や関連事業との連携による、統括的な事業展開が必要である。	2,250

事　業　名	事　業　内　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
玉野市子ども会連絡協議会研修事業 〈社会教育課〉	協議会の研修を通して、子どもたちのリーダーとしての自覚、集団でのルールの体得を促すとともに、親子・他校の子どもとの交流を図る。	B	≪成果≫ 平成28年度は、子ども会員63人の登録があり、各単位子ども会での活動の他、合同での体験活動等も行った。これにより、リーダーとしての自覚や集団でのルールの体得を図ることができた。 ≪課題≫ 少年団や他の活動と重なる等の理由から、入会者や行事の参加者が集まりにくいという課題がある。 広報活動等により、会員数の増加を目指すとともに、研修会の内容を検討し、更なる交流を図っていきたい。	70
成人式開催事業 〈社会教育課〉	新成人を招き、祝賀交歓のうちに大人としての自覚と市民意識を高め、 社会に貢献し力強く生きていくよう激励する。	B	≪成果≫ 平成29年は新成人426人が参加した。（参加63.3％）新成人が企画運営に携わる実行委員会形式で行った第２部では、抽選会、恩師のビデオレター上映を実施するとともにお互いに祝福、激励することで、社会の一員としての自覚と責任を持つ場として成果があった。 ≪課題≫ 近年、実行委員会に自発的に参加する新成人が少数であるとともに、実施内容が固定化されつつあることから、実行委員の関心や意欲を喚起するための方策を検討する必要がある。	1,749
たまの地域人づくり大学 〈中央公民館〉	地域活動に役立つ知識・技術等を習得するための各種講座を実施し、地域において活躍できる人材を育成する。	A	≪成果≫ 平成22年度に開講し、７年目となる平成28年度は９講座、２記念講演を実施し、延べ503人が受講した。これまでに受講生が交流サロンの運営や観光ボランティアとして活動を始めたり、ノルディックウォークの普及活動を行うなど、本学での学びの成果を地域で活かしている。 ≪課題≫ 今後も地域活動に生かせる講座、地域づくりにつながる講座など内容の充実に努める。	1,553

事　業　名	事　業　内　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
児童館管理運営事業 〈社会教育課〉	児童に健全な遊びや場を提供して、その心身の健康を増進し、情操を豊かにする。	B	≪成果≫ 乳幼児から中学生までを対象に、遊びや体験学習の拠点として様々なイベントを開催。来館者数13,740人。ボランティア大人167人、子ども259人。エコキャップ回収運動や児童館大掃除、瀬戸内芸術祭手伝い等を行った。 ≪課題≫ 遊びを通じての子どもの育成、子育て家庭支援地域活動の促進などの事業内容の充実が課題である。	8,228
放課後児童クラブ管理運営事業 〈社会教育課〉	労働等により昼間家庭にいない保護者を持つ児童に対し、授業終了後に児童厚生施設等の施設を利用して、適切な遊び及び生活の場を与え、子どもの状況や発達段階を踏まえながら、その健全な育成を図る。	A	≪成果≫ 田井・築港・宇野・玉・玉原・日比・第二日比・荘内・八浜・大崎・後閑・胸上･鉾立の14小学校区17クラブを開設している。児童増加のため、夏休みに鉾立放課後児童クラブを増設。保護者からの要望を受け、長期休業中の開所時間を８時30分から８時に試験的に変更した。 ≪課題≫ 登録児童数は増加傾向にある。クラブの大規模化と施設の老朽化が課題である。	146,079
子育てメールマガジンの配信 〈就学前教育課〉	子育て支援サイトとして「児童館だより」「子育て支援センターだより」等の情報を毎週金曜日に配信する。	A	≪成果≫ 毎週金曜日に、子育て世帯の保護者等を対象に、以下の情報を提供することで、間接的に子育て支援を図ることができた。 ・イベント情報　　・児童館だより ・すこやかセンターだより ・子育て支援センターだより ・図書館だより　　・玉野市民病院だより ・社会教育課だより　　・就学前教育課だより ＜登録者数＞ 平成28年度末　704人 平成27年度末　659人 ≪課題≫ 配信している情報はメールマガジン受信者が必要としている情報か、また、他に受信者にとって有用な情報や配信すべき情報はないか等、配信内容を精査する必要がある。	－

【区分】多様な保育サービスの提供

事　業　名	事　業　内　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
病児・病後児保育事業の実施 〈就学前教育課〉	玉野市民病院内の病児・病後児保育室で小学校低学年までの子どもで、病気の回復期・回復期ではないものの入院治療の必要はない場合に預かりを実施する。	A	≪成果≫ 玉野市民病院に委託して、保護者が就労等の都合により過程で保育できない病児又は病後児の保育を実施し、多くの病児の受入れを行うことができた。 ＜受入人数＞ 平成28年度　276人 平成27年度　171人 ≪課題≫ 本市内で病児保育を実施している施設は、玉野市民病院だけである。 利便性の向上を目指すと、他事業者の事業参入が求められる。	6,697
子育て支援情報の提供 〈就学前教育課〉	子育て支援センター、各保育所・幼稚園で園庭開放を行い、子育てに関する相談を随時受け付ける。	B	≪成果≫ 保育園等を利用していない保護者の子育て支援の拠点施設として、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援することに貢献できた。 子育て支援センター主催のイベント（いっしょにあそぼ！、おやつ講座、クリスマス会など）を複数回開催し、親子間の交流や子育てに関する情報交換が行える場を設け、多くの来場者を得た。 ＜園庭開放来場組数＞ 平成28年度　3,449組 平成27年度　3,498組 ＜イベント来場組数＞ 平成28年度　537組 平成27年度　627組 ≪課題≫ イベントの内容が固定化しつつあるため、多様なイベントが開催できるよう、調査・研究を進めることが求められる。	32,882

事　業　名	事　業　内　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
一時保育の実施 〈就学前教育課〉	保護者の疾病等の緊急時に、あらかじめ登録した乳幼児（保育園児以外）の預かりを有料で実施する。（子育て支援センター）	A	≪成果≫ 保育園等を利用していない家庭を対象に、突発的な事情や社会参加などにより、一時的に家庭で保育が困難な子どもを保育し、保護者の心理的・身体的負担を軽減することに貢献することができた。 市内３か所の子育て支援センターのほか、サンマリン認定こども園で実施し、多くの利用を受けた。 ＜利用者数＞ 平成28年度　4,459人 平成27年度　3,847人 ≪課題≫ 一時預かりの利用に関し、同じ内容の問い合わせが複数寄せられることから、チラシ、パンフレット等を更新するなど、事業内容のほか、対象者や利用制限等を分かりやすく周知する必要がある。	15,752
一時預かり事業の実施 〈就学前教育課〉	認定こども園（短時間部）で行っている一時預かり事業を幼稚園にも拡充する。	A	≪成果≫ 平成28年度に認定こども園化した八浜認定こども園（短時間部）を含め、市内の全認定こども園（短時間部）３か所と、全幼稚園７か所で事業を実施し、在園児の保護者の心理的・身体的負担の軽減に貢献することができた。 ＜利用者数＞ 平成28年度 ・幼稚園（７園）　244人 ・認定こども園（３園）　414人 ≪課題≫ 事業開始時の想定ほど、利用者数が伸びていない状況である。 単に需要がないのか、制度設定の問題か、見極めていく必要がある。	－

Ⅱ．心豊かでたくましく生きる人間を育てる学校教育の推進

【区分】心と体の育成

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
スクールカウンセラー配置事業 （国･県･市） 〈学校教育課〉	全小中学校及び市立高等学校へスクールカウンセラーを派遣し、児童生徒・保護者及び教職員の支援を行う。 また就学前全園に保育カウンセラーを派遣し、子育て相談等に取り組む。 国事業による配置：中学校７校 県事業による配置：小学校３校 市事業による配置：就学前全園 小学校10校 高　校２校	A	《成果》 スクールカウンセラーを積極的に活用し、児童・生徒及び保護者のカウンセリング等を通して、学校不適応等の問題改善に成果をあげた。 教員とのコンサルテーション、校内研修やケース会議を通して問題解決や教員の資質向上に成果があった。 就学前における子育てや発達相談等に取り組むことで保護者の支援に成果を上げた。不登校についても若干ではあるが減少している。 《課題》 学校園間で活用に若干の差があるため、学校園に対する有効な活用事例の紹介や広報活動、カウンセリングの必要がある保護者への働きかけを行う必要がある。	1,804
スクールカウンセラー連絡協議会 〈学校教育課〉	適応指導教室・教育支援室・スクールカウンセラー及び関係機関の連携を図り、市内の教育相談体制の充実を目指す。	A	《成果》 市内各校に派遣しているスクールカウンセラーと関係機関が集まり、教育相談体制の充実についての有意義な情報共有を図り、効果的な問題解決の方向性や日頃のスクールカウンセラー業務の円滑な運営に成果があった。 《課題》 性同一性障害や被虐待児へのカウンセリングの在り方等、専門性を高める協議が一層必要である。	－
こども未来づくりネットワーク連絡協議会 〈学校教育課〉	適応指導教室・教育支援室・スクールカウンセラー等と学校が情報共有による連携を図るとともに、研修会等を行い、いじめや不登校等の諸問題の解決に向けて、相談ネットワーク関係者の資質の向上を図る。	A	《成果》 適応指導教室や教育支援室からの情報提供を行うと共に、各校の教育相談担当者が情報共有を図ることで、中学校区における教育相談の充実が図られた。 また、不登校に対する講演会を行うことで、校内体制を整え、適切な不登校対応を行っていく意識づくりができた。 《課題》 今日的生徒指導課題に一層対応するため、性同一性障害や虐待等の専門研修を充実させる必要がある。	－

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
チャレンジワーク推進事業 （県・市） 〈学校教育課〉	中学生の地域における職場体験活動の充実を図り、望ましい職業観や勤労観を育て、自分の将来に夢を持ちながら、主体的に進路選択や決定ができる力を育成する。	B	《成果》 地域の各事業所との連携により、有意義な職場体験活動が実施でき、生徒が自分の夢を持ち、主体的に進路を考えるきっかけづくりができた。 《課題》 職場体験活動の内容の充実を各事業所に依頼していく必要がある。	378
生徒指導体制の充実 〈学校教育課〉	児童生徒の抱える課題の多様化が進んでおり、特別支援教育の視点に立ち、幼児期からの継続的な指導・支援を行う生徒指導体制である「玉野市教育支援体制」を堅持し、関係機関との連携のもと、子どもたちの健全育成に取り組む。 また、いじめ防止基本方針に基づいたいじめを生まない学校づくりや、不登校を生まない学校づくりを総合的に推進する。	A	《成果》 教育支援体制の推進により、各校の課題のある児童生徒のためのケース会等が活性化した。 教育支援研修会や中学校の生徒指導主事連絡会等で、情報交換や特別支援教育の視点に立った指導・支援の重要性を研修することで、適切な生徒指導支援が図られた。 中学校区の連携が進んでいることで、各中学校の落ち着いた学習環境の確保が実現できている 《課題》 県の広域人事交流の方針により、教員の市外異動が活発になっているため、より一層の体制を維持していく働きかけが必要である。	－
適応指導教室運営事業 〈学校教育課〉	不登校児童生徒に対し、教育相談や創作活動、自然・社会体験等の集団活動を通して、自発性や社会性、集団への適応力等を育て、学校への復帰を支援する。発達段階や児童生徒の状況に応じて活動場所や内容を分けることできめ細やかな支援を行う。	A	《成果》 学習指導の充実や所属校との連携等により、小学生６名、中学生12名が通室し、そのうち中学生３名、小学生２名が学校復帰等を果たした。卒業生は小学校・中学校合わせて５名で、中学校卒業生２名のうち、公立全日制に１名、定時制に１名が進学先を確保した。 また、地域ボランティア等と連携して、体験活動を充実させることで集団適応力の育成に取り組んだ。 《課題》 発達障害のある児童生徒の通室割合が増加しており、個別指導の一層の充実が必要となっている。	9,045

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
教育支援室運営事業 〈学校教育課〉	玉野市教育サポートセンター内の教育支援室において、多様な個別相談を受けるとともに、学校支援訪問を行い、学校と連携して、児童生徒の学校不適応等の諸問題の解決を図る。	A	《成果》 平成28年度、相談件数180件、相談のべ件数1,874件実施し、学校における生徒指導上の諸問題解決の支援にあたった。ケース会や訪問相談等も増えてきており、各校・園からも、支援が有効であったという意見が寄せられた。 《課題》 相談ニーズは年々高まっているものの、人員増は困難なため、運営の効率化を図る必要がある。	4,043
小学校不登校対策実践研究事業（県） 〈学校教育課〉	市内４小学校に登校支援員を配置して、不登校に対する小学校の組織的な対応力向上を図るとともに、別室を活用した不登校の初期段階における児童や家庭への積極的な関わりや、不登校児童の学校復帰に向けた支援を行う。 （田井小・築港小・荘内小・玉原小）	A	《成果》 登校支援員を配置した小学校において、不登校児童の別室登校対応が可能となったり、長欠･不登校児童の数が前年度より減少するなどの成果が見られた。 また、長欠・不登校児童が出現しなかった研究校もあり、大きな成果が出ている。 各校で校内の不登校や登校しぶりが見られる児童についての情報共有を図り、「個別の支援ファイル」を作成する等して校内の支援体制の充実を図ることができた。 市内に不登校対策の取組モデルを示した。 《課題》 成果は上げているものの不登校問題の解消とはなっておらず、今後も取り組みを継続していく必要がある。	2,623

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
アレルギーメールマガジンの配信 〈学校給食センター〉	給食に含まれるアレルギー原因食品をメールマガジンにより携帯電話やパソコンへ情報発信し、食物アレルギーに関する情報の提供に努める。	A	《成果》 メールマガジンの配信希望登録数は、携帯電話74件、パソコン55件（平成28年６月末現在）で、登録者のニーズにあう内容を配信できた。 アレルギー除去献立については、５大アレルゲンを除去した献立を１回実施した。 《課題》 ５大アレルゲン除去献立では他の食物アレルギーには対応していないことから、保健調査で把握しているアレルギー原因食品の除去を考慮した献立を作成することで、多くの児童・生徒が一品でも多く食べることができる給食の提供を推進していきたい。	－
学校における食育の推進 〈学校教育課〉	子どもたちの食に関する適切な判断力・実践力を養い、生涯にわたって健全な食生活を実現し、心身の健康の増進と豊かな人間形成を行う。また、食物アレルギー対応の手引きに基づいた校内管理体制の充実を図る。	B	《成果》 食育推進検討委員会を年４回開催し、給食指導の在り方や食育の取組、アレルギー対応の体制等について研修を行うとともに、献立案について審議することで、児童生徒の健康増進と食への関心を高めた。 《課題》 より効果的な指導に取り組むため、教科横断的な食育推進計画等の一層の充実が必要である。	－

【区分】学力向上の推進

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
35人学級の実施 〈学校教育課〉	小学校第５学年から第６学年において、本市独自に教員を雇用して35人学級を実施し、基本的生活習慣や学習規律・学習習慣の定着を図る。 （玉原小５・６年生）	A	《成果》 35人学級の実施により、きめ細やかな指導を展開し、小学校における基本的生活習慣や学習規律、学習習慣の定着を図ることができた。 国・県の学力学習状況踏査の結果も向上している。 《課題》 講師不足の中で優秀な講師を確保していくことが困難である。	8,530

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
小１グッドスタート支援事業 （県・市） 〈学校教育課〉	小学校第１学年の児童数の多い学級に県費に市費を加えて、年間を通して教育支援員を配置し、学級担任を補助しながら、児童の基本的な生活習慣の確立を図る。 （宇野小１名・玉原小１名）	B	《成果》 小学校第１学年の30人以上35人以下の学級において、県費・市費により年間を通じて、教育支援員を配置し、担任をサポートして子どもたちにきめ細やかな支援を行うことができた。 《課題》 支援員がなくなる２年生で指導が困難となるケースがあるため、段階的な移行が必要である。	661
小学校学習支援事業 〈学校教育課〉	小学校第３学年以上の全学年において、学力に課題があり、習熟度別少人数指導等の実施が成果を上げる学級に市費による非常勤講師を配置して、基礎基本の定着を図る。 （玉小・二日比小・八浜小・玉原小）	B	《成果》 各配置クラスの課題に応じて習熟度別少人数指導や取り出し指導等を行うことで、子どもたちの実態に即したきめ細やかな指導に取り組み、基礎基本の定着に成果があった。 《課題》 学級の状況に応じた指導法の工夫を行えたが、学力向上の数値的成果については１校のみの向上に留まった。	3,223
中学校学習支援事業 〈学校教育課〉	中学校に少人数指導やＴＴ指導、個別指導等を実施するため、市費による非常勤講師を配置し、生徒の学力向上を図る。 （玉中・日比中・山田中・荘内中）	B	《成果》 少人数指導等の指導法の工夫により、生徒の実態に応じたきめ細やかな指導を実施することができ、落ち着いた学習環境の確保等に成果があった。 《課題》 生徒指導上の成果はあるが、配置校の学力向上の数値的成果には結びついていない。	2,179

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
中学校数学力ステップアップ事業 〈学校教育課〉	全ての中学校第１学年において、習熟度別少人数指導を実施し、数学における生徒の躓きの減少を図り、数学力の向上に努める。 （宇野中・日比中・荘内中）	B	《成果》 中学校１年生の全学級において、習熟度別少人数指導を実施したことで、個別の対応や実態に応じた指導ができ、学習に躓きのある生徒への支援に成果があった 《課題》 習熟度別学習指導の設定がやや低かったため、成績上位者の育成に課題があった。 また、習熟度別指導が必要ではない学級もあり、事業内容を検討する必要がある。	1,954
小中連携英語力育成事業 〈学校教育課〉	中学校の英語教員に学区内の小学校へ兼務をかけ、週１回６年生の外国語活動の支援を行うことで、児童の英語に対する興味関心を高め、コミュニケーション能力を育成するとともに、生徒指導上の連携も密にしながら、小中連携を推進する。 （宇野中・八浜中）	A	《成果》 中学校の英語科教諭を中学校区内の小学校５・６年生の外国語活動の支援に派遣したことで、外国語活動の充実が図られた。 また、児童の様々な課題が把握でき、中学校区連携の課題や生徒指導の望ましい方向性の検討等、小中連携の充実に成果があり、各校長からも連携が進んだ等の評価を得ている。 《課題》 教員同士の打合せの確保に工夫が必要である。	1,694
中学校アフタースクール学習支援事業 〈学校教育課〉	学習支援を必要とする生徒に放課後の個別指導や補充学習等を行い、基礎学力の定着等を図る。 （宇野・玉・日比・荘内・八浜：年間40回、山田・東児：年間20回）	A	《成果》 基礎学力の定着に課題のある生徒に対し、放課後及び長期休業中に個別指導や補充学習に取り組むことで、基礎学力の定着や学習意欲の向上に資する事ができた。テストでほとんど点数を取れない生徒がわかるうれしさを知り、学習に取り組んで定期考査で少し点数をとった等の好事例が寄せられた。 《課題》 人数が多い場合、きめ細やかな対応が困難となる。	553

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
英語教育推進事業 〈学校教育課〉	外国語指導助手（ＡＬＴ）による教育活動の支援を実施し、児童生徒に生きた英語を学ばせるとともに、市内の小・中・高等学校の英語教育及び外国語活動・国際理解教育を推進する。 （ＡＬＴ派遣数：３名）	A	《成果》 小学校の外国語活動及び中・高等学校の英語授業にＡＬＴを派遣し、各校のプランニングシートに基づいた質の高い指導を行い、生きた英語に触れることで、児童生徒の英語への関心を高めるとともに英語力育成に成果があった。また、英語スピーチコンテストへの指導等に活用できた。 特にメインで派遣している商業高校ではコミュニケーション英語における指導の充実が図れ、今後の宇野港等での国際交流活動の活性化に期待が持てる。 《課題》 小学校外国語活動等が活性化する中で、派遣回数を増やしたいが財政上困難である。	16,200
魅力ある授業づくり徹底事業（県） 〈学校教育課〉	確かな学力を育成する授業の実現に向け、指導主事を派遣し、授業改善に向けた指導・助言等や校内研修等の支援を継続的に行い、「わかる・できる」を実感できる授業づくりを推進する。 （田井小・日比小・荘内小・胸上小）	A	《成果》 事業指定校に対し県・市の指導主事が学校を訪問し、「わかる・できる」を実感できる授業づくりについて、指導助言を継続的に行った。 各校とも積極的に授業公開を行い、充実した研修を通して授業改善が推進でき、対象校の教員の指導力の向上が図れた。 《課題》 市内全体の授業改善の中でアクティブラーニング等の導入等に努める必要がある。	－
たまのっ子算数プリント作成と活用 〈学校教育課〉	小学校第３学年から第６学年までの算数の基礎計算や図形などの子どもが躓きやすい課題を解決することができるように、自学・自習プリントを作成し、各校において活用できるようにする。	B	《成果》 小学校の教科書採択に伴い、新しい教科書に対応した改訂版のプリントを作成して全小学校に配付した。 各校では朝学習や放課後の補充学習等に活用し、既習事項を効果的に学び直すことができた。 《課題》 学校により活用頻度に差があるため、一層呼びかけをしていく必要がある。	－

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
学力向上プラン作成と実践 〈学校教育課〉	全国及び岡山県学力・学習状況調査等を用いて子どもたちの実態を的確に把握し、各校において学力向上プランを作成するとともに、作成したプランに沿って、継続的に様々な取組を推進し学力向上を図る。	B	《成果》 各校が、作成した学力向上プランに基づき学力向上のための計画的・継続的な取り組みを行い、授業改善や補充学習、家庭学習への啓発等の多角的な学力向上の取組の改善を図ることができた。 《課題》 学力向上のための取組は充実し、落ち着いた学習環境は実現したものの、学力状況調査での数値には、学校間格差等の課題があり、今後さらに取組内容の検討が必要である。	－
小学校・中学校研究指定事業 〈学校教育課〉	教員の資質を向上し、授業力を高めるため、研究校を指定して指導方法や教材教具等の研究開発や校内指導体制の整備を進め、市内全体に研究成果を広める。 （後閑小・玉原小・東児中）	A	《成果》 各校園において、子どもたちの実態に合わせて研究に取り組み、授業公開や研究協議を通して、その成果を市内の教員に広めることができ、本市教育の充実に成果を上げた。 玉原小学校では図画工作における授業のユニバーサルデザインという視点で研究に取り組み、市内に授業モデルを示した。 《課題》 予算が少ないため、有名な講師を学校へ招聘することができない。	69

【区分】特別支援教育の充実

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
生活支援員配置事業 〈学校教育課〉	障害や虐待、その他様々な課題のある幼児･児童生徒が在籍する幼稚園･小・中学校に48名の生活支援員を配置し、生活と学習の支援に取り組む。 （全幼稚園・田井小・築港小・宇野小・玉小・日比小・二日比小・山田小・後閑小・荘内小・八浜小・大崎小・胸上小・玉原小・宇野中・玉中・日比中・荘内中・八浜中）	B	《成果》 発達障害等様々な課題のある幼児･児童･生徒に対して支援員を配置することで、生活や学習の場面において、きめ細やかな支援を実施することができた。 《課題》 児童生徒の課題の多様化・重複化が進んでおり、多様な支援ニーズに対応できる事業改善を行ったが、各課題に応じた支援員の効果的な活用のための学校のコーディネート力の向上が必要である。	34,837

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
特別支援教育事業 〈学校教育課〉	特別支援教育推進のための講師を招聘して研修会を開催したり、先進地視察等を実施して教員や指導主事の資質向上を図る。	B	《成果》 市教育委員会主催の各種研修会の充実に取り組み、市内全体の特別支援教育の一層の充実を図った。 《課題》 課員の多忙化により、先進地視察等にあまり取り組むことができなかった。	77
特別支援教育ネットワーク連絡協議会 〈学校教育課〉	障害のある幼児・児童生徒の社会的自立を目指して、早期からの適切な支援を行うとともに、中学校区を単位とした地域支援ネットワーク体制の充実を図る。	B	《成果》 各校園で継続的な支援のための「個別の支援ファイル」を作成するとともに、各中学校区で合同研修会を設けたり、支援の充実のための情報共有に取り組み、体制整備に資することができた 《課題》 県の広域人事交流の方針により、教員の市外への人事異動が加速化するため、今後、人が替わっても継続できる中学校区組織とするために、適切な就学指導や継続的な支援のための連携等をさらに充実させる必要がある。	－
特別支援教育サポートチームの派遣 〈学校教育課〉	障害のある幼児・児童生徒に対して障害の特性に応じた適切な指導を行うことができるよう、専門家等で組織するサポートチームを編成し、各校・園に対する支援訪問を行い、特別支援教育に係る様々な課題の解決を図る。	B	《成果》 学校園からの要請に応じ、専門家チームが支援訪問を行い、ケース会議への助言や課題分析等を通して特別支援教育に係る課題解決を図った。 《課題》 大きな課題が減少していることもあるが、若干支援訪問回数が減少している。就学前園との連携を一層深めるとともに、チーム派遣の活性化を進めたい。	－

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
授業のユニバーサルデザインの推進 〈学校教育課〉	特別支援教育の視点に立った授業改善を推進し、全ての子どもが「わかる・できる」を実感できる授業の構築に取り組む。	B	《成果》 学力向上研修会や、教育支援研修会等の各種研修会において、授業のユニバーサルデザインによる授業改善のポイントについて研修し、全ての子どもが「わかる・できる」授業づくりの取組を推進するとともに、指導主事が学校を積極的に訪問し、授業改善について指導・助言を行い、授業実践力の向上を図ることができた。市内全体で定着は図られている。 《課題》 県の広域人事交流の方針により、教員の市外への人事異動が加速化するため、今後、人が替わっても継続できる授業改善の方針の定着を図る必要がある。	－
特別支援教育研究指定事業 〈学校教育課〉	中学校区での適切な支援の継続や通常学級での支援の在り方、特別支援学級での指導充実等について等の総合的な研究を指定し、市内全体の特別支援教育の充実を図る。 （宇野中学校区）	B	《成果》 これまでの研究推進形態を中学校区ごとに変更したため、発表会は開催せず、該当中学校区での研究推進に留めた。 《課題》 各中学校区で総合的に研究に取り組むため、協議等の効率化を図らなければ教員の負担増となる。	－

【区分】保育士・教員等の指導力向上

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
教育研修所事業 〈学校教育課〉	教職員の資質向上のため、幼･小･中の教員からなる教科・領域別の 27 部会を設け、指導の在り方に対する研究や調査を行う。	B	《成果》 各部会において、外部講師を招聘するなどして、授業研修の充実を図り、授業力向上等の様々な教育課題について研修に取り組んだ。 《課題》 教職員の負担軽減及び資質向上のため、さらに効果的な研修所組織の再編等に取り組む必要がある。	206

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
保育協議会研修会の実施 〈就学前教育課〉	保育士等の職種別に専門的な研修を実施し、保育に必要な知識・技能の習得を図り、職員の資質向上を図る。	A	《成果》 玉野市保育協議会に委託して、様々な研修を実施した。 平成 28 年度は、以下の研修を実施し、保育園の運営に必要な多種多様な分野での知見を深め、保育所全体のレベルアップに努めることができた。 ・食品衛生、アレルギーについて ・食物アレルギー予防食等について ・秋冬の花壇の管理について ・幼児の育ちと造形表現 －絵の手紙の実践を通して－ ・子ども主体の異年齢交流 ・保育で使える楽しいマジック　他 《課題》 保育所の運営上、ローテーションにより勤務が割り振られているため、研修日に勤務が割り振られていると、研修参加を希望しても参加できない場合がある。	100
各種研修会の実施 〈学校教育課〉	幼・小・中・高等学校の中堅教員を対象に指導力や企画運営力を育成するための中堅教員研修会を開催したり、ヤングリーダーのための研修会、教育課程研修会、教育支援研修会等、様々な研修会を企画運営し、教職員の指導力向上を図る。	A	《成果》 市教委が主催し、様々な研修会を実施して、教職員の資質向上に努めた。玉野の教育施策の周知徹底に成果があった。 《課題》 教職員の負担軽減のため、研修会の精選を進めていく必要がある。	－

【区分】教育環境の整備

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
学校事務の共同実施 〈学校教育課〉	学校事務の共同実施により、情報交換や相互支援を行い、より一層正確で質の高い学校事務の実施を推進する。	A	《成果》 共同実施協議会や各共同実施グループの定例会の充実により運営や取り組み内容について充実を図ることができた。 「学校運営への積極的な参画」を研究テーマに設定して取り組むことで、東備玉野版学校事務の手引きの更新や財務マニュアル等の改善等が進み、成果を上げた。 《課題》 学校事務の急激な若返りにより、共同実施を活用した人材育成の取組が必要である。 学校事務職員の学校運営への参画意識を一層高め、校務を整理していく必要がある。	－
校種間連携の実施から中学校区一貫教育構築へ 〈学校教育課〉	中学校区内の小・中学校が、行動連携を図り、学力向上や規範意識の醸成等について継続的・計画的な指導を行い、子どもたちの健全育成に努めるとともに、就学前教育保育を含めた中学校区一貫教育実現に向け取組を進める。	B	《成果》 中学校区内の小・中学校の教員が相互に授業参観し、共同で研究協議を行うことで、発達段階を踏まえた系統的な学習指導等に取組むとともに、中学校区の生活心得による行動連携の充実を図りながら、地域の子どもを連携して、育成する体制を整備できている。 また、園小接続プログラムの作成にも着手し、地域の子どもを地域で育てる機運が醸成している。 《課題》 今後、生徒指導・特別支援教育上の課題解決や学力向上・学習の円滑な接続等について連携をさらに推進し、中学校区一貫教育の一層の充実を図っていく必要がある。	－

【区分】安全・安心の確保

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
不審者情報メールマガジンの配信 〈学校教育課〉	インターネットを利用して不審者情報を迅速に学校や幼稚園関係者・保護者・市民等の携帯電話やパソコンへ配信し、情報を共有することで幼児・児童生徒の安全確保に努める。	A	《成果》 平成 28 度は 2 通の不審者情報についてメール配信し、園児・児童生徒の安全確保を促すことができた。 《課題》 警察が発信するもも君メールもあるため、事業の見直しの検討が必要である。	－
地域パトロール隊 〈学校教育課〉	小学校を単位とする地域住民や関係機関のボランティアによるパトロール隊の協力を得て、子どもたちの安全の確保を図る。	A	《成果》 小学生の登下校時の安全を守るため、各小学校区において老人会やコミュニティの協力を得て子どもたちの安全確保を図ることができた。 登下校時の不審者遭遇等の事案はなかった。 《課題》 一斉下校が原則となるため、放課後の学習指導や個別支援の実施が困難である。	－

【区分】環境教育の推進

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
環境教育推進事業 〈教育総務課〉 〈就学前教育課〉	使用電力量に対する努力目標値を設定し、それを達成できた学校園に対して、環境教育推進の目的にかなう物品購入のために、消耗品費を別途配分する。	B	《成果》 平成28年度は約 6 割の学校園が目標値を達成し、節電によるコスト削減及び省エネ意識の向上につながった。 《課題》 今後は達成率の向上を図るとともに、達成した校園においても更なる節電に努めていきたい。	398

【区分】スポーツ・文化芸術活動の振興

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
競技スポーツ振興事業 〈学校教育課〉	競技力の向上及び競技スポーツの推進を図るため、市立の中・高等学校の運動部活動に所属し、県内予選会等を経て中国大会以上の規模の大会に出場する団体・個人に対して、激励会を開催し、激励金を支給する。	A	《成果》 平成28年度は、10件の激励会を開催した。参加した生徒の大会等への意欲を高め、部活動等の成果を上げることができた。 《課題》 市内の学校に対して申請漏れがないよう引き続き広報していく必要がある。	210
玉野市立学校文化・芸術活動等育成事業 〈学校教育課〉	玉野市立学校において、文化・芸術活動等に積極的に取り組む個人･団体の育成を図るため、祝い金を支給する。	A	《成果》 平成28年度は２件の激励会を開催した。参加した生徒の活動意欲を高め、学校における文化芸術活動の活性化を図ることができた。対象の商業高校からは次への意欲が高まるという評価を得た。 《課題》 市内の学校に対して申請漏れがないよう引き続き広報していく必要がある。	30

【区分】家庭・地域との連携

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
教育委員懇談会 〈教育総務課〉	教育に対しての期待をより的確に把握する一方法として、教育委員と関係団体等とがテーマに沿った懇談を行い、教育行政に反映させる。	B	《成果》 「“たくましく まなんで のびるたまのっ子”を育むために」を共通テーマに３回実施。ＰＴＡ役員、保育園･認定こども園長、中学校区連携コーディネーターなど、延べ18人から各現場の生の声を聞くことができた。 《課題》 様々な意見を発言できるよう、会場や雰囲気作りに気を配り、引き続き現場の声や意見の掌握に努めたい。	－

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
玉野商業高等学校 学校ボランティア活性化事業 〈学校教育課〉	生徒が学校の教育活動で身につけたノウハウを地域や地元住民に還元することで、本市の活性化やまちおこしに役立てる。	A	《成果》 地域でのボランティア活動に積極的に取り組み、学校の信頼を高めるとともに、地域のまちおこしに貢献できた。 また、「キッズビジネスタウンたまの」を開催し、小学生の職業観等の育成を図ることができた。 《課題》 小学校の学校行事との関連で開催時期を決定することが困難であった。 学校規模が限られているため、希望する小学生全員を受け入れることが困難である。	428
園と家庭のかけはし事業 〈就学前教育課〉	市内の保育園・認定こども園・幼稚園に通う３歳児から５歳児の幼児がいる家庭に「かけはしノート」を配布し、幼児の成長の姿を記録して園と家庭が信頼関係を構築し、協力して子育てに取り組む。	A	《成果》 保育者の幼児理解を推進し、保護者との連携を深める成果があり、保護者の子育てへの支援に効果的であった。 《課題》 教員の負担は大きいため、事業の改善が必要である。	－
土曜授業の実施 〈学校教育課〉	市内の全小中学校において年間２回以上、土曜日に授業参観や学校行事等を実施し、保護者や地域に対して学校教育活動の理解を図り、開かれた学校づくりを推進する。	A	《成果》 特色ある教育活動を計画的に実施することで、保護者や地域住民と児童生徒がともに学ぶ場を確保できるとともに、学校の取組を多くの保護者や地域の方々に効果的に紹介することができ、理解を図る事ができた。 また、授業参観や懇談会、講演会等を土曜日に実施することで、全体的に参加者が増えた。特に父親の参加が増加した。 《課題》 少年団や地域の行事、中学校区内の他の学校等との日程調整が困難である。	－

Ⅲ．生きがいに満ちた人生を育む生涯学習の振興

【区分】生涯学習の推進

事　業　名	内　　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
生涯学習人材バンク 〈社会教育課〉	文化・芸術・レクリエーション活動等において、優れた知識・技能を有している人を指導者として登録してもらい、市民の多様な学習活動を支援するとともに、人材の有効な活用を図る。	B	《成果》 市民の学習活動を支援することで生涯学習活動を推進している。 《課題》 講師登録内容の充実を図るとともに、市民の学習ニーズに合致した体制づくりに努める。	－
生涯学習施策推進事業 〈社会教育課〉	平成27年３月に策定した「玉野市生涯学習基本計画（第２次）」に基づき、生涯学習施策を効果的に推進し、人づくり・地域づくりなどを図る。	B	《成果》 関係部署及び教育機関を含めて全庁あげて、市民が主体的に学習活動に取り組めるよう支援した。受講ニーズの把握に努め、問い合わせの多い講座を検討及び地域コミュニティと連携しながらの事業も充実させ、学習意欲の向上を図った。 《課題》 「まなぶ」「いかす」「つながる」「ひろがる」の4つの方針を関連づけつつ、毎年の施策評価により、常に見直しや実施効果を高める改善への取組を十分に進める必要がある。	－
まちづくり出前講座 〈社会教育課〉	市職員や市民ボランティアが講師となり、「出前」をして講演を行い、市民の自主的な生涯学習やまちづくりの活動を支援する。 また、年に１度メニューの見直しを行うことで、社会情勢や市民ニーズにあったメニューの提供に努める。	A	《成果》 市民のニーズを把握し、現代社会に合ったメニューを提供するため、毎年メニューの見直しをおこなっている。講座受講数は、26年度322件、27年度336件、28年度348件と年々増加傾向にある。 《課題》 市民ニーズが高い、「救急」や「防災」講座の受講数は多いが、そうでない講座との差が大きい。広報活動や講座提供のない課への呼びかけ等により、より充実したメニューの提供に努める。 また、他の講座事業との組み合わせやスリム化なども検討していく。	－

【区分】人権教育の推進

事　業　名	事　業　内　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
人権教育推進事業 〈社会教育課〉	様々な人権問題に関する課題別研修講座を開設し、広く市民に学習機会を提供するとともに、 市内小・中学校のＰＴＡを対象とした研修会を行い、人権問題の解決に資する。 また、保育園・認定こども園・幼稚園の職員、保護者を対象とした就学前人権教育研修会を開催し、人権意識を高める教育環境の充実を図る。	B	《成果》 人権教育推進委員会、小・中学校ＰＴＡ人権教育研修会、就学前人権教育研修会、人権教育課題別研修講座（全６回）等を開催し、人権問題についての学習機会を提供した。人権教育課題別研修講座では、「外国人」や「性的少数者」など、より幅広い人権課題を取り上げ、広く市民に啓発を行った。 小・中学校ＰＴＡ人権教育研修会、就学前人権教育（教員）研修会では、参加者が主体的に取り組むワークショップ形式の研修を行い、アンケートの結果評価が高いものとなった。 《課題》 各研修会や研修講座のアンケートの結果をもとに市民のニーズに合った研修の在り方について検討し、様々な人権課題を取り上げ、研修形態も工夫しながら参加者を増やし、人権意識の高揚を図っていくことが課題である。	128

【区分】青少年健全育成活動の推進

事　業　名	事　業　内　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
補導活動の推進 〈社会教育課〉	街頭補導・特別補導・地区補導等に積極的に取り組み、問題行動の把握に努め、青少年の健全育成を図る。	A	《成果》 補導は、１年を通して計200回実施し、育成センター職員・健全育成指導員・教職員・ＰＴＡ等延べ1,000人が参加した。得た情報は学校等関係機関に連絡し、対応した。大きな問題はなく、青少年の健全育成とりわけ非行の抑止力として、非行防止に成果があったと思われる。 《課題》 岡山県の少年非行率は、若干改善されたものの平成28年は全国ワースト３位で依然として全国平均を上回っている。万引き防止や自転車の鍵かけ運動などとともに補導活動の充実と非行が起こりにくい地域づくりが求められる。	－
広報啓発活動と関係機関との連携 〈社会教育課〉	機関誌「みちびき」を発行し、青少年の健全育成や非行防止の啓発に努める。また、保育園・認定こども園・幼稚園・小学校・中学校及び高等学校の訪問や他機関との連携を深め、実態把握と問題の解決を図る。	B	《成果》 「みちびき」は、毎月1,350部発行し、学校、園、警察、行政等関係団体等に配布している。「市内の補導状況」「規範意識の確立」「問題行動への対応」「スマートフォンやインターネットの適切な利用」などの記事を掲載し、健全育成に対する理解や関心を高めることができた。また、市内すべての学校園を訪問し、情報交換を行うことで問題点やその対応について共通理解を図ることができた。 《課題》 これまでの取組を継続するとともに、今後も学校や地域と連携しながらルールやマナーを守る機運の醸成を図る必要性を感じている。	－

事　業　名	事　業　内　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
環境浄化活動 〈社会教育課〉	環境美化助成事業の普及ならびに青少年健全育成機関と連携を図りながら、青少年に悪影響を及ぼす社会環境の浄化に努める。	B	《成果》 青少年に害を及ぼすおそれのある看板・張り紙等の広告物はほとんど見かけなくなり、目立った落書き等もなくなったが、書店やコンビニでの有害図書の区分陳列等について、常に環境浄化を意識しながら補導活動を実施した。また、「正しく使おうケイタイ・スマホ」のティッシュを青少年に配るなどの啓発活動を行い、意識付けを図った。 《課題》 環境美化助成事業については、継続して周知を図りたい。 青少年を取り巻く環境も変化し、スマートフォン・インターネットの有害サイト等で犯罪被害に遭うケースが増加している。啓発活動を継続し適切な利用を推進したい。	－
不審者対策 〈社会教育課〉	警察・ＰＴＡ・青少年健全育成連絡協議会等、関係諸団体と連携を図りながら巡回活動や看板設置に取り組み、安全確保に努める。また、地域の協力を得ながら、登下校の安全確保に努める。	B	《成果》 青少年健全育成団体等による日頃の地域での補導や見守り活動が、青少年の安全安心に寄与していると思われる。また、市内の「こども110番のいえ」は現在471軒あり、不審者からの避難場所として定着してきた。登録している「こども110番のいえ」については、調査を依頼し、確認している。ステッカーも順次新しいものに取り替えている。 《課題》 子どもたちがいざというときに安全に避難することができるように、「こども110番のいえ」について更に周知・徹底する必要がある。 また、登録している「こども110番のいえ」においても一部高齢化が進んでいるため、新たな担い手の発掘も課題である。	－

【区分】スポーツの推進

事　業　名	事　業　内　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
総合型地域スポーツクラブ育成事業 〈社会教育課〉	市民が、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに携わることのできる生涯スポーツのための環境の整備を目指す。	B	《成果》 レクレセンターで各種スポーツクラブ教室を開催することで、身近なスポーツ機会を提供しており市民のスポーツに対する理解と関心が浸透している。 《課題》 財源確保など安定的したクラブ運営が課題である。	－
スポーツ指導者研修会開催事業 〈社会教育課〉	スポーツ推進委員や体育協会指導者等の資質の向上を図り、スポーツ活動のより一層の普及・充実を図る。	B	《成果》 継続的に研修会を開催することで指導する年代に応じた適切な指導が行えるなどニーズに沿った指導ができる指導者の養成に寄与している。 《課題》 指導者の人材確保とスムーズな世代交代が図れるよう引き続きサポートが必要である。	－
競技スポーツ推進事業 〈社会教育課〉	競技スポーツに積極的に取り組むクラブ（部）等の育成と競技力の向上・推進を図るため激励金を交付する。	B	《成果》 社会体育における全国大会以上出場者（チーム）に対し、激励会を開催し、激励金を交付した。併せて、記者発表を行うことで、出場者の意識高揚及び競技のＰＲが図られた。申請件数は11件（全国大会11件） 《課題》 一定基準の中で交付しているが、予選規模や支給対象などに課題があり、公平性の面から一部見直しの検討が必要である。	215

事　業　名	事　業　内　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
トップアスリート招へい事業 〈社会教育課〉	市内のジュニア層にスポーツの楽しさを啓発し、中・長期的な視点において選手育成、競技力の維持・向上を図るため、市内の各種競技団体が全国レベルのトップアスリートを招へいする事業に対し、補助金を交付し、本市のスポーツ人口の増加、ひいては生涯スポーツの推進に努める。	B	《成果》 ３団体へ補助を実施し、合計489人が参加した。 招へいしたトップアスリートが、子どもたちへの個別指導等を通じて技術力の向上を図るとともに、夢や目標を持つことの大切さを教えるなど、トップレベルの選手の経験や知識を身近に触れることができる良い機会となった。 《課題》 選考会を経ての決定ではあるが、申請団体が固定されている。今後は、事業の広報に努めるなど積極的なＰＲが必要である。 また、企業版ふるさと納税を活用した事業であるため、受益団体への周知方法等について協議・検討が必要である。	1,500
スポーツ施策推進事業 〈社会教育課〉	平成２５年度に策定した「玉野市スポーツ推進計画」に基づき、スポーツ関係団体等と連携し、各種スポーツ施策を計画的に推進する。また、「玉野市スポーツ推進審議会」を通じて、各種施策の進捗状況の検証並びに進行管理に努める。	A	《成果》 スポーツイベントの開催支援をはじめ、スポーツクラブ教室のメニュー充実など、計画に掲げた施策の推進・充実が図れた。また、審議会は様々なスポーツ分野の代表で構成されており、毎年の進捗状況の検証では委員から率直な意見を聴取できるため、利用者ニーズや要望を掴む良い機会となっている。 《課題》 未着手の施策については、実施手法の検討や関係団体との連携を探るなど引き続き実施に向けた調整を図る必要がある。	－

【区分】地域文化の振興

事　業　名	事　業　内　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
市民コンサート事業 〈総合文化センター〉	市民主体の演奏会等を実施し、市民の音楽への関心を高めるとともに、市内の音楽団体の活性化を目指して事業を実施する。	A	《成果》 コンサート（無料３件、入場者数延べ1,105人）を開催し、多くの市民に音楽に接する機会を提供することができた。 《課題》 毎年行っているコンサートは今後も継続するとともに、より多くの市民に音楽に関心を持ってもらえるよう内容の充実に努める。	300
文化・スポーツ顕彰事業 〈社会教育課〉 〈総合文化センター〉	文化･スポーツの分野において優秀な成績を収めたり、長年にわたりその普及・振興に尽くしたりした個人または団体を表彰し、本市の文化･スポーツの充実･発展に寄与する。	A	《成果》 ４個人（文化３個人、スポーツ１個人）を表彰した。表彰制度は各分野で長年活動を続けている個人、団体にとって励みとなった。 《課題》 （スポーツ）競技団体からの推薦者以外で、全国大会等で優秀な成績を収めた者が本市出身者かどうかの把握が困難である。 （文化）表彰制度は各分野で活動を続けている個人、団体にとって励みとなっており、今後も関係団体に推薦依頼するとともに、表彰対象となる個人や団体の把握に努める。	166
芸術文化振興事業 〈総合文化センター〉	市内各地に伝わる文化・芸能等の保存育成、新たな創造活動に対し、助成や支援を行う。	A	《成果》 申請のあった１団体（備品購入：ビブラフォン１台）に助成金を交付し、芸術・文化活動の支援を行った。 《課題》 現在は再申請を可能（助成を受けてから５年間は不可）としているので、芸術文化活動を行う団体に有効に制度を活用してもらい、本市の文化振興につなげる。	271

事　業　名	事　業　内　容	評価	成　果　と　課　題	決算額（千円）
文化財保護事業 〈総合文化センター〉	市民の文化財への関心が高まるように、市指定文化財案内板の付け替えを行う。	B	《成果》 文化財保護委員会の開催や文化財保護研修に参加し、貴重な文化財の保護・管理に努めた。また、新小学４年生(411名)に「玉野市文化財地図」を配付したり、市指定の重要無形文化財を広報紙で紹介するなど市民への周知を図った。 《課題》 今後も文化財への関心が高まるような効果的な広報活動や、貴重な文化財の保存、整備に努める。	450
トップアーティスト招へい事業 〈総合文化センター〉	本市の芸術文化を担う人材の育成ならびに本市芸術文化の振興に資することを目的に、国内外で活躍するアーティスト・指導者等を招へいし、広く子ども等に優れた芸術文化に接する機会を提供する。	B	《成果》 ２小中学校（荘内小、八浜中）に補助金を交付した。各校ともに生徒が興味、関心を示す事業（音楽鑑賞体験）を実施し、本物の芸術文化に触れるよい機会となった。 《課題》 本事業は、平成21年度から開始し、８年目を迎えており、事業内容の見直しを含め検討していきたい。 また、企業版ふるさと納税を活用した事業であるため、受益団体への周知方法等について協議・検討が必要である。	500

平成２８年度　幼稚園・学校の施設整備等

主要事業	内　　容	決算額（千円）
耐震改修事業	・小学校校舎耐震補強 工事監理 玉原	4,725
	・小学校校舎耐震補強 工事 田井・玉原・後閑	221,943
	・小学校仮設校舎借上 玉原	21,882
	・中学校校舎耐震補強 工事 八浜	159,711
	・中学校仮設校舎借上 八浜	9,456
	・高等学校屋内運動場耐震補強 工事 玉野商業（武道場）	17,096
老朽化対策事業	・小学校施設整備 宇野　　プール濾過機取替（付随整備工事含む） プール内部塗装 築港　　屋内運動場改修	15,378
	・中学校施設整備 山田　　フェンス新設	724
	・保育園施設整備 玉原　　屋上防水改修	1,944

平成２８年度　社会教育施設の施設整備等

主要事業	内　　容	決算額（千円）
公民館整備事業	・図書館・中央公民館移転整備（工事監理）	14,040
	・図書館・中央公民館移転整備（工事）	438,480
体育施設整備事業	・総合運動公園整備 バックネット改修	968
	・総合体育館整備 冷却水ポンプメーター及び非常用発電機用タイマー取替 屋根南側片棟押え破損部修繕 屋内消火栓配管改修	6,345

学 識 経 験 者 に よ る 意 見

■玉野市教育振興会　会長　井上　清

毎年のことではあるが、まずは、市当局、教育委員会のご努力に感謝を申し上げたい。従前から玉野市には他市に先駆けての事業が多々ある。 特別支援教育の単独市費による支援員の配置や教育サポートセンターの諸事業、「35人学級」を始めとする小中学校への学習支援員の配置、「地域子ども楽級推進事業」、点検・評価外ではあるが、生涯学習の場として広く利用されている公民館活動等々、市民の一人として誇りに思う。

今年度の点検・評価は機構改革などにより、前年度の55事業から大幅に増えて73の事業が対象である。3分野あわせて、A評価が38、B評価が35であった。いずれも妥当な自己評価である。「教育委員会の活動」も、玉野市の教育全般にわたつて細かく活動されている様子が良く分かる報告書となっていた。以下、分野ごとに私見を申しあげてみたい。

Ⅰ「心のかよいあう家庭地域の教育力」

「地域子ども楽級」が、平成28年に文部科学省から表彰を受けた。子ども楽級は平成15年度から、おさらい会は平成22年度から始められた。全14小学校で実施されていることが評価されたものであり、もちろん他市には例がない。「学校支援地域本部」は、平成20年、玉原小学校をモデル校として始めたもので、現在、2幼稚園、14小学校、1中学校に開設されている。学校と地域の接点ともなり、 高く評価できる。「地域こども楽級」の課題として、国の「放課後子ども総合プラン」による「放課後児童クラブ」と「地域子ども楽級」との連携や、「地域学校協働本部」との関わりについての記述があるが、一体化は慎重かつ丁寧に進めるべきであろう。

Ⅱ「心豊かで、たくましく生きる人間を育てる学校教育」

「心と体の育成」「学力の向上」「特別支援教育」等、充実した内容となっていた。

市の手厚い学習支援や中学校区一貫教育の推進で、小中学校はいま、かつてないほど落ちついた状態にある。ユニバーサルデザインの取組とも合わせ、学力テストにも好影響が出てくるに違いない。「教育相談」「不登校対策」「保育研修会」等も評価できる。幼稚園についての記述が少ないのが少し気になった。「英語教育」については、「ALT」や「小中連携英語力育成」など、平成31年度から実施される小学校英語に備えた内容となっている。

Ⅲ「生きがいに満ちた人生を育む生涯学習」

老人会・婦人会等、地域住民の活動の中心となっている公民館・市民センターでの活動が点検・評価外となっていて、ほとんどが前年と同様の内容となっている。もともとA評価になりにくい事業が多いのだが、真摯に取り組んでいる様子が伝わってきて、概ね満足な成果が認められる。

「豊かな心を育むまち」に、図書館・中央公民館が新装オープンした。玉野商業高校に機械科ができ、産官学が連携して卒業生の市内就職者増を目指した取組を進めるとも聞く。

久方ぶりの明るいニュースである。

■玉野市ＰＴＡ連合会　会長　東　りえ

全般的に地方教育行政に関わられている皆様方の熱意と、努力の成果を感じられる報告でした。「心身ともに健やかで、生きがいと喜びに満ちた豊かな人生の実現を目指す」という基本方針の旗下、グローバルでユニバーサルなデザインを駆使され、随所において熱心に取り組まれておりました。

学校の耐震工事が終わり、子どもたちに安心安全な教育の環境が整ったことは大変うれしく感じております。また、学力向上の推進につきまして、多岐にわたるきめ細やかな取り組みが、継続的・計画的に実践されていることは大変心強く思います。成果とともに課題も明確になっています。支援員の配置の問題など、積極的に学習支援に取り組んだものの数値として表れていないところもあるようですが、「継続は力なり」と事業に邁進していただきたいと切に願います。

また、特別支援教育について、子どもを取り巻く多様な支援ニーズに対応できる経験や知識を求められ、さらに複雑なケースにおいてはソーシャル的なコーディネートが不可欠となっております。現状、生活支援員の配置やスクールカウンセラーの配置等で対応されており、評価はＢとされていますが、個々のケースにおいて、成果を出すには大変時間がかかることと思われます。成果よりプロセスを重視されて評価をつけられたらよいかと思います。社会全体で支える大きな課題と認識することも必要かと感じております。

文化醸成については、生涯学習は市民の学習活動を推進し、満ち足りた人生を育むことを目標とされております。市民ニーズをしっかりとリサーチし、一人でも多くの方々が、この活動に興味関心を持つことを課題とし、現代社会にあった学びの場の提供を要望します。超高齢化の進む玉野市において、大変重要な施策の一つと受け止めております。その中でも、青少年健全育成活動については、補導活動、広報啓発活動、環境浄化活動など、毎年同じ活動になってしまいがちです。しかしながら、市民が青少年に関心を持つ機会となっていることは、これからの市を支えていく原動力として、おおいに意味あることだと強く感じております。社会が「見ている」「見守っている」仕組みは、変わらず継続していく意味を強く感じております。

地域文化の振興におきましては、文化事業を開催する場がないという意見を耳にすることがあります。玉野市民会館の老朽化、文化センターホール閉鎖に伴うハード面のことだと感じております。市の財源等々考慮すると、直ちに対応するとこは困難だとは思いますが、市民の声として真摯に受け止めていただきたいと思います。

総合的に、すべての取り組みが単年での評価は厳しいものがあると感じております。前年度との比較ではあまり変化がなくても、３年前、５年前と比較してみると大いに成長し、また市民サービスの向上、市民意識の変化を感じることも多いかと思われます。それらすべてを日々の取り組みの成果として、今後とも粛々と事業を進めていただきたいと思います。

■王野市コミュニティー協議会　会長　江田　康夫

教育委員会は、学校教育・社会教育など多くの事業に取り組み、細やかに実行されている事に感謝いたします。

Ⅰ．心通い合う家庭・地域社会の教育の充実

地域と学校との繋がりが良いと評価されている事は、それらがうまく機能し、活動できていることの証左であり、児童・生徒は安心して勉学に励み、楽しい学生生活になることと思います。

学校支援地域本部事業

多くの事業を行っていますが、地域の伝統行事を通して地域の良さと親しみを感じる場が、欲しいものです。

Ⅱ．心豊かでたくましく生きる人間を育てる学校教育の推進

学力向上の推進

学習支援事業で、魅力ある充実した授業作りに取り組んだ成果が見られますので、これらの授業をもっと堀り下げてみてはどうでしょうか。岡山県が「学習指導のスタンダード」として３つの視点と７つのポイントを掲げています。「聞き方・話し方・手本を示す」のこれらの内容を参考にするのは、どうでしょうか。

Ⅲ．生きがいに満ちた人生を育む生涯学習の振興

生涯学習・人権教育の推進は、あまり良い評価になっていません。

文化芸術の取り組み方が、詳細に伝わってこないように思えます。

文化芸術を楽しめるまちは、住みたいまちで、地域の宝でもあり、誇りです。こうした文化の面で、専門的な有識者の意見や考えを事業として積極的に取り込むことを計画してほしいです。

学校教育は、これからのまちの発展に対して、大きな資源となります。教育委員会、教職員の皆様方のご努力に心から感謝いたします。